

島根県トライアスロン協会 会報

2026年1月吉日

島根県トライアスロン協会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は島根県トライアスロン協会の活動に、ご理解・ご協力賜り誠にありがとうございました。本年も相変わらず宜しくお願い致します。

さて、今回の会報誌はわた SHIGA 輝く国スポ 2025 特集ですので、是非ご覧下さい。当会報誌は、季刊発行（1月、4月、7月、10月）を目指しておりますので、会員皆様からの投稿を是非お願い致します。過去の会報誌では、レースレポート、新会員紹介やコラムなどありましたが、なんでも OK です。発行前月の 20 日までに（4月発行であれば3月20日までに）、私のメール（machokato@smn.enjoy.ne.jp）に原稿送付お願い致します。

会報誌担当 加藤一朗

追伸① 島根県トライアスロン協会の Facebook も始めましたのでこちらもご覧下さい

追伸② <2026年の大会日程> 速報

2026年5月24日(日) 2026 さくらおろち湖スプリントトライアスロン
2026年9月6日(日) 第8回さくらおろち湖トライアスロン大会

【2026年新春号目次】

- | | |
|----------------------------------|--------|
| ① 新春6時間耐久スイム大会 | 岡 秀樹 |
| ② わた SHIGA 輝く国スポ 2025 特集 | |
| わた SHIGA 輝く国スポ 2025 男子監督を経験して | 西村 元宏 |
| 国スポ帯同報告 | 下田 真由美 |
| トレーナーとして帯同 | 伊藤 羽空 |
| 滋賀国スポ | 高見 雅晴 |
| 2025 滋賀国スポレポート | 渡部 創平 |
| いくぞ島根！ここがスタート | 山田 梓 |
| 国スポ参戦記 | 松田 美香 |
| 裏国スポ参戦記 | 母里 充 |
| ③ ジュニア向けトレーニング機材のご恵与について | 母里 充 |
| ④ ベストトライアスリート賞、ベストスタッフ賞、ベストジュニア賞 | 加藤 一朗 |
| ⑤ 役員紹介 | 母里 充 |

新春6時間耐久スイム大会

【 開 催 要 項 】

1. 主 催 (一社) 島根県トライアスロン協会地域振興中部地区
2. 協 力 平田スイミングスクール
3. 期 日 令和8年2月1日(日)
4. 会 場 平田スイミングスクール(平田ショッピングセンタービュア隣)
5. 内 容 受付: 9時00分~9時30分
競技: 10時00分~16時00分(6時間)
参加費: 1,500円(島根県トライアスロン協会会員は1,000円)
※参加費は当日の受付時に徴収
6. 競 技 グループA: 一人チーム ※計測者同伴の場合は500円引き
グループB: 二人チーム
グループC: 三人チーム
グループD: 四人チーム
グループE: 五人チーム
7. 表 彰 各グループ毎に3位まで表彰
8. 競技規則 ひとり又はチームリレーで泳いだ総距離を競う。
スタートから6時間経過時点での往復回数及び到達距離により順位を決定する。
ビート板、プルブイ、ウエットスーツ等の補助用具は使用不可。
スイムキャップは必ず着用のこと。
泳ぐ順番、交替方法、泳ぎ方、休憩は自由。
各グループとも周回計測者(選手可)を用意すること。
飲食は指定場所でのみ可とする。
なお、大会中の負傷その他の事故は一切参加者の責任とする。
9. 申 込 島根県トライアスロン協会HPから申し込みお願いします
申込締切: 1月25日(日)
10. そ の 他 様々な理由により中止する場合がある事をご理解頂いた上でお申し込み下さい。
大会で撮影した写真や動画を当会のHPや各種印刷物などに使用する場合があります事を予めご了承下さい。
11. 問合せ先 〒691-0031 出雲市東福町165-3
岡 秀樹
TEL: 0853-62-2828
Email: okshimatora@yahoo.co.jp

2025年12月26日

わた SHIGA 輝く国スポ 2025、男子監督を経験して

西村 元宏

国民スポーツ大会トライアスロン競技の男子監督として、昨年度の佐賀国スポに続き、今年度は滋賀国スポでの男子監督を担当しました。

監督対応は今回で二度目となりましたが、初めて担当した佐賀大会では、監督として何をすべきか十分に理解できておらず、女子監督の下田さんや島根県スポーツ協会に申請手続きや大会運営に関する事項を一つひとつ確認しながら対応を進めました。そのため、大会実施に向けた準備段階から手探りの状態が続きました。

大会期間中は結果として常に慌ただしく、対応に追われる中で時間が過ぎ、気が付けばあっという間に大会が終了していたというのが正直な印象です。この経験から、事前準備や情報整理の重要性を強く認識しました。

一方、今回の滋賀大会では前回の経験を生かし、申請関係をできる限りスムーズに進めること、選手や関係者との連絡を密に取り、安心して大会本番を迎えられる環境を整えることを目標に監督業務にあたりました。提出書類や手続きの流れを事前に把握し、関係各所と計画的に情報共有を行うことで、直前の混乱を抑えることができたと感じています。

また、監督業務では大会対応だけでなく、選手強化に関わる補助金や経費管理も重要な役割となることを改めて認識しました。

補助金の申請や精算についても慎重に対応し、限られた予算の中で適切な運用を心掛けました。これらの経験を通じて、監督として求められる役割の幅広さと責任の重さを改めて認識し、今後の国民スポーツ大会対応に向けた課題と改善点を整理する貴重な機会となりました。



大会前々日の練習前の選手たち



大会前日説明会会場での選手団全員

チーム しまね

2025. 9. 28
IN 滋賀県近江八幡



結果もさることながら「最高のチーム」でした！

今年も女子監督として帯同してきました。まず、女子選手枠2名をしっかりと埋めることができたことを選手に感謝します。全国をみても、近年出場枠を埋めることのできない県も多く、競技団体として島根県に与えられる出場ポイントを確保することも大切な責務です。選手たちが、しっかり調整しスタートラインへ立つことできたことに、ひとまず安堵しました。

(レース内容は選手レポートを読んでください！)

女子両選手とも、忙しい仕事のなか練習に真摯に取り組み、大舞台でも落ち着いた試合運びを見せてくれました。その結果、山田選手は島根県勢最高順位となる6位入賞を果たし、これまで積み重ねた努力が確かな形として表れた大会となりました。また、松田選手もレベルの高い中で粘り強くレースを展開し頑張ってくれました。

両選手とも最高峰のレースの中で、自らの課題と向き合い、今後につながる貴重な経験を得ることができたと感じています。

今回、マーシャルを含め新たなトレーナーと共に「チームしまね」として戦える唯一の場で、いい雰囲気のもと無事日程を終えられたことに感謝いたします。今後も選手全体の底上げを図り、さらなる飛躍を目指したいと思います。引き続き、皆様のご支援とご声援をよろしく願います。また、お近くにトライアスロンに興味のある方がおられましたらぜひ連絡を頂ければと思います！

トレーナー

氏名：伊藤 羽空（イトウ ハク）

出身：島根県出雲市

出身競技：競泳

この度、トレーナーとして島根県トライアスロンチームに帯同させていただきました。出雲市出身の伊藤羽空と申します。

少し私の自己紹介をさせて下さい。私自身生まれも育ちも出雲市でピュア島根県民です。3歳から高校3年生まで競泳をしていました。専門種目は200m 個人メドレー、100m バタフライでした。

以前一度だけキッズスイムラン多伎に出場して3位入賞したことがあります。

私自身小学校5年生の時に日本代表スポーツトレーナーの方との出会いがあり、「スポーツトレーナーになって選手のサポートがしたい！」と志しての今があります。

今回ご縁を頂き国スポ帯同という夢が一つ叶い大変貴重な経験をさせていただきました。国スポ帯同までの期間にさくらおろち湖大会の様子を拝見させていただいたり、インターネット等でトライアスロン競技について知ることから始めました。

大会では、選手のサポート役である監督・トレーナーだけでなく自転車のコンディションを調整するメカニックと呼ばれる専門のスタッフがおられたりと初めての経験ばかりでした。大会前日のウォーミングアップでは、浅瀬の深さや風向きなどを見ながら有利になるスタートポジションがどこか作戦を練ったり、自然が相手のスポーツでその場の環境に適応してパフォーマンスを発揮するという今まで経験したことのない競技に関わらせていただくことで今までは無い視点を学ぶことが出来ました。

私自身、トレーナーとして未熟で至らない点もありますが、今回の経験を活かして今後更にレベルアップしたトレーナーになれるように精進して参ります。

最後に大変貴重な体験をさせて頂きましたこと感謝申し上げます。

有り難う御座いました。



題名：滋賀国スポ

氏名：高見雅晴

9月29日に島根県代表のふるさと選手として『私が輝く滋賀国スポ』に参加させていただきました。大会運営に関わっていただいた滋賀県トライアスロン協会の皆様、島根県トライアスロン協会の方々、沿道での熱い声援をしていただいた方々本当にありがとうございました。

自分自身の目標の一つであった国スポに出場する事ができました。今年に入り多くのエリートレースに出場してきましたが緊張や場の雰囲気負け思い描いたレースをする事ができませんでした。レースがスタートして序盤にスイムで出遅れてしまいました。また、ブイ周りでの立ち回りや、上陸からの入水の技術などまだまだ未熟であると実感しました。スイムを終え陸に上がった時にはバイクは数台しかなく、創平さんのバイクもなかったため焦ってしまいトランジションで少しもたついてしまった事が反省点の一つです。バイクに入ってから創平さんに追いつき前から溢れてくる選手を抜かしつつローテーションを行っていきましたが前の集団に追いつくことはできずにバイクを終えました。ここからが、自分の得意なランなのでもう一度気合いを入れ直して走りましたがアップダウンの多いコースに苦戦し思うように走れず悔しい順位になってしまいました。

私が高校時代に陸上で行けなかった国スポにトライアスロンという別の競技ではありますが島根県代表として地元を背負って戦う事ができたこととても嬉しく思います。

今年の悔しい結果をそのままにするのではなくその反省を生かし来年の青森国スポでまた代表になってより良い結果を島根に持って帰れるように日々の練習を頑張っていきたいと思います。

これからもご声援よろしくお願ひします。

2025 滋賀国スポレポート

渡部創平

初めに、大会を開催、運営して下さった、日本トライアスロン協会、滋賀トライアスロン協会の皆様、沿道に応援に駆けつけて下さった方々、ありがとうございます。また、遠征の様々な面でサポートして下さった team 島根の皆さん本当にありがとうございました。

私は昨年に引き続き2回目の国スポ出場となりました。昨年のレースの1番の課題はスイムでした。今年はスイムを良い位置で終え、バイクでパックをつかむことが1番の狙いでした。スイムのスタート後、エリート選手たちがどんどん離れていくのを感じながらも1周目の折り返し後に自分の周りにもかなり人が残っており、このパックで波をもらいながらいけば良い位置でスイムを終えられるのではと思いました。2周目の入水で周りに6人ほどいたので単泳だった昨年より良いと手ごたえがありました。2周目の折り返しで一気にきつくなりだんだんと離されていきました。スイムアップ後は前に何人か見えて、後ろにも数人いました。トランジは肺がきつく前に追いつくことができなかったので、後ろと合流していこうと思いました。前日の試走で漕ぎだしに起伏が2キロ程度続くことを確認していたので、ここがターニングポイントと思っていましたが、後ろから来た2人はかなりスピードがあり、1度後ろにつきましたが、長めの上り坂でちぎれてしまいました。しばらく単走でしたが、同じく島根代表の高見が後ろから来たので合流して一緒に漕ぎました。向かい風と追い風がはっきりした往復コースだったので、単走の時はかなりきつかったです。後ろから追いついてくれた高見には感謝です。ランコースは行きが登り、帰りが下りの4往復で、走り始めはバイクで脚をかなり消費したため、攣ってしまいました。下りでリズムを取り戻し走りきることができました。

今シーズンを通して、スイム中に肺が苦しくなり、その後のレースもスピードに乗れないことが多かったです。国スポでもそれを克服することができませんでしたが、昨年よりも良い位置でスイムを終えられました。たくさんの課題と収穫があったレースとなりました。

改めてレースを無事に終えることができたのは、支えて下さった team 島根のみなさん、運営して下さった関係者の皆様のおかげです。そして、沿道の声援がとても力になりました。ありがとうございました。





題名：いくぞ島根！ここがスタート。

氏名：山田 梓

皆さん、いつもご声援いただきありがとうございます！
先日 9/28(日)に滋賀県で開催されたトライアスロン競技に出場し、国スポ（旧国体）4度目にして初の入賞(6位)を達成することができました。

西村・下田両監督をはじめ、今回初めてトレーナーとして帯同してくれた伊藤くん。

島根から駆けつけて下さった協会の皆様、安全なレース運営に携わって下さった TO の皆様。名前を挙げればキリがないくらい多くの方のお陰で得ることができたこの結果に感謝の言葉が尽きません。本当にありがとうございます。

【レース】

① スイム 1.5 km

スイム会場はかなりの遠浅。レース 1ヶ月前に下見で練習していた際に、水中で脚を捻挫。幸い軽症だったが、その時のトラウマもあり恐る恐るスタート。笑

なんとか無事にスタートを切り、泳ぎだす。手に纏わりつく草？藻？が鬱陶しい。笑

まあ、気にしてはられないのでそのまま淡々と泳いだが、先頭 2人が抜け出す形。その後、5名ほどの集団がいて、私はもう一つ後ろの集団に。スイムアップは 10番手くらいだった。

② バイク 40 km

スイムから抜け出していた 2人が第 1集団を形成。その後ろに 5名ほどの第 2集団。私は更に後ろの第 3集団の中にいた。バイクは片道 2.5 km弱を 7周回し、会場に戻ってくるコース。

ド平坦のためバイクの走力の差が出にくい。さすがに先頭 2人とは実力差があり、差が縮まらなかったが、第 2集団には 3周回目ぐらいには追い付き 3位～10位集団となった。

7周回終えて順位は変わらず最終ランへ。

③ ラン 10 km

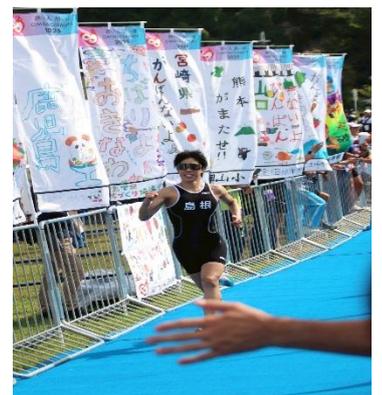
昨年の佐賀大会よりも起伏はないが、それでもアップダウンメインのコース。

前日、前々日と蜂に刺された選手もいたので内心ヒヤヒヤ。

この大会までに軽い捻挫を 2回していたので十分な練習が積めたわけではないけど、身体の動き作りを一から見直してきた成果がここにきて現れてくれた。

1. 焦らず淡々と走る(ペースは最後まで上げない。一定を維持)
2. 苦手な上りはピッチを落とさない
3. 前の選手だけを追う

走りながらこの 3つを頭の中で唱え続けた。一時は 4位まで上げたが、最終フィニッシュ 6位。



「地元之恩返しをしたい」と公言し続け、過去 3大会の悔しさを忘れなかったこの 1年。強くなった。でも、まだまだここから。ゼロを一にできたので、一を二へ、そして三へ。関わって下さる皆さんにもっと最高の景色を魅せられるように！引き続き突き進みます。今後ともよろしくお願いします！

題名：国スポ参戦記

氏名：松田 美香

2年ぶりに国スポの舞台に立たせていただきました。

スイムは、始めは浅瀬のため、なかなか泳ぎ出せないという不思議なスタートとなりましたが、前日の試泳時のような波のうねりがなかった分、安心してスタートをすることができました。とは言うものの、1周目は思うように泳げず、2周目でやっと徐々に自分の泳ぎができるようになりました。

バイクに移ってからは、周回コースの追い風・向かい風を繰り返す7周にほぼ単独走となってしまう、気持ちが切れそうになることもありましたが、沿道からの下田監督たちの激に押され、乗り切ることができました。

そして、ランでは、微妙な登りを含む日陰が多い4周回コース。前日のコース上での蜂出没事件もありましたが、スタートしてしまえばそんなことも忘れてしまい、最後は笑顔でゴールすることができました。

順位としては、73位...タイムともに悔しさが残る結果となりましたが、ひとまず、この国スポという舞台を楽しめたことに自分自身トライアスロンをやってきて良かったなと思える瞬間となりました。

久しぶりの国スポ..いつもながらのマイペースな私に車での移動からいろいろな場面での本当に丁寧なサポートをしていただいた監督、地元で応援して下さったトライアスロン仲間の皆様、本当にありがとうございました。

トライアスロンに出会って20年、トライアスロンが自分の人生の一部になっていることは確かです。この楽しさをトライアスロンをやろうか迷っている人たちにも感じてもらい、みんなで楽しみ競っていくことで、来る2030年の島根かみあり国スポに繋がることを願っております。

裏国スポ参戦記

母里 充

裏国スポといっても国スポに対抗した競技をやっているわけではありません。国スポを観戦応援するために、現地への往復も含めた参戦記です。一人旅は気軽でいいです。でも全て自己完結しなければならない大変さもあります。

[旅はトラブル]

えっ、旅は“トラベル”ではなかったのですたっけ？

今年九月の滋賀国スポに出かける前日に JAL からのメールが夜遅くに届きました。

■トラブルその1：飛行機が飛ばない

「お客様の予約便は機材の都合で飛びません」

が～ん、国スポ応援に出かける目的がひとつ無くなってしまいました。

以前から個人的な興味で日本の津々浦々の空港を潰して（利用して）いるのですが、今年狙った「但馬コウノトリ空港」（豊岡）への伊丹からの便（第二便）が飛ばなくなりました。

滋賀県に空港は無く、トライアスロン競技会場（近江八幡市）に距離的に近いのは名古屋空港（小牧）ですが、ここは利用したことがあるので対象外。となると JAL のマイレージ利用で行ける使っていない空港は但馬コウノトリ空港がファーストチョイスですがそれが使えない、さあ困ったどうしよう、と旅の前夜からのトラブル発生に頭を悩ませているうちに寝てしまいました。

但馬コウノトリ空港は伊丹からの一日2便運航だけで朝一の出雲伊丹便で飛んでも最初の便には間に合いません。さらに大阪の伊丹空港に着いたとしてそこから兵庫の豊岡まで陸路で戻るのはかなり無理があるため、最初から JR 利用で豊岡まで行くことにして但馬コウノトリ空港行きをキャンセルしました。帰りはまだ使ったことのない中部国際空港（セントレア）からの出雲便（FDA）利用のため、まずは出雲空港に車を置いて輪行袋から MTB を取り出して組み立て、荷物を担いで15分漕いで宍道駅に行きます。そこでバイクをバラして輪行袋に詰め直すと各駅停車を乗り継ぎ17時過ぎに豊岡に着きました。

■トラブルその2：列車が動かない

翌朝、バタデンに良く似た京都丹後鉄道で丹後半島を眺めながら再び各停で舞鶴を目指します。昔オートバイでツーリングし、福井国体では車で訪れたエリアをを列車とサイクリングで巡るのは楽しそうです。雨に煙ってぼやける車窓を眺めていると、

「お客様、信号機故障のため復旧まで当分この列車は動きません」

のアナウンスで駅と駅の間に停まり2時間半余りのロス。雨も本降りになってきたため福井国体のトライアスロン競技会場だった若桜和田（大飯原発の近く）から山越えて琵琶

琵琶湖西岸を目指す MTB ツーリングは諦め、舞鶴から先は雨脚を見ながら敦賀経由で琵琶湖北岸まで、また JR 各停を乗り継ぐことにしました。

琵琶湖にはビワ 1 という一周サイクリングコース（180 km）が整備され便利なマップも web で公開されています。トラブルでサイクリング距離が半分になったスタートを琵琶湖北岸で湖西線と北陸本線が分かれる近江塩津駅にすると、バイクを組み立てて出発しました。

■トラブルその 3：野営予定地がキャンプ禁止

まだ小雨も降ってるし明け方も雨予報なので Google マップで目を付けておいた湖岸の公園に行くと、雨宿りにちょうど良い東屋がありトイレも近くです。

が、横のゲートボール場に「キャンプ禁止！！○○地区老人会」の張り紙がベタベタ貼ってあります。強引に東屋でテントを張ると翌朝爺さま達に取り囲まれて糾弾されるのがオチなので、諦めて先に進みました。

■トラブルその 4：まさかのダブル通行止め

交通量の多い賤ヶ岳トンネルに近づくと「工事中歩道通行禁止！」の看板があり、それなら迂回路で県道を目指すとその入口も工事車両が道を塞いでいて「この先通行止め」の看板が乗ってます。前後にライトを付けていても大型トラックが数多く行き交う国道 8 号のトンネルを走る気にならずオタオタしているとちょうど関係者が通りかかりました。「自転車は通れま〜す」の指示に安心して県道を上るとそこもトンネル内の工事中でした。トラブルには至らなかったもののぞーっとした時間です。

■トラブルその 5：喧しや虫の声

野営地を探しながらウロウロしているうちに長浜市に入りました。琵琶湖周航の歌にも「明日は今津か、長浜か」と歌われていて当初予定だと初日に今津から琵琶湖をぐるりと回るはずでした。よ〜し、この川土手の公園でいいだろう、と草むらにテントを張ると陽が落ちた頃から虫たちの合唱が始まりました。

虫の声といえば「あれ松虫が鳴いている〜」で始まる秋の虫を愛でる歌ですが、テントの周りから、いや草むらをなぎ倒してその上に張ったテントに怒った虫たちの怒声かテントの下からも聞こえてきます。チンチロリンなんて可愛げで生やさしいものでなく何十種類もと思われる虫たちの大合唱に圧倒されてビールを飲んでも寝むれず、鳴いている虫の種類を声分けしながら数えているうちに疲れて寝ていました。

■トラブルその 6：キャンプ場からの追放

雨に湿ったテントを撤収して大会会場までの 50 km 余りを琵琶湖岸を南下しました。この距離なら楽勝のはずが肩に食い込むリュックが重く、やれやれで現地到着。

トライアスロン競技会場の真ん前がキャンプ場という好立地でしたが、受付で非情な宣告を受けました。

「お客様、日曜日はトライアスロン競技のため明日土曜の朝には撤収してください。全員締め出しです。」

私は後催泉の関係者ですが、の抗弁もむなしく「決まりです」の問答無用。
会場設営が終わりほっと一息の滋賀県関係者を見つけるとその中に辻君の姿がありました。辻君は今回の技術代表ですが皆生大会の優勝歴もあり滋賀医大の職員でもあったので、彼の家に泊まったこともある間柄でした。彼にキャンプ場での連泊をお願いするも「あかんやろなあ〜、あきらめたがええでえ〜。そや、蜂に注意してや〜」

[旅で襲われる]

強盗などの物騒なことではないにしろ旅では襲われることもあります。

■襲われるその1：テント内で

2023年の鹿児島国体（トライアスロン競技会場は徳之島）でのことです。

（初日の移動経路は出雲〜伊丹〜鹿児島〜与論島）

与論島のビーチの木陰でお気軽キャンプを楽しみ、さざ波を子守歌にテントの中で寝入っていたところ、急に足指に激痛が走り飛び起きました。

「な、何だ！」と足下を照らすと獲物を取り逃がして不満顔の大きなヤドカリがはさみを振り上げています。

ビビりながらつまんで外に放り出すとテントの回りでガサゴソと物音がしました。沢山のヤドカリ達が獲物を探していたのかも知れません。

後で調べると亜熱帯の海岸沿いで陸に生息するオカヤドカリでした。

■襲われるその2：テント外で

徳之島に移動して大会も終わり、さらに気ままな徳之島ぐるりサイクリングを楽しんでいました。

高橋尚子ロードと呼ばれる県道629号から少し離れたビーチのキャンプ場にいましたが、近くにハブセンターなるものがあって内心ビビっていました。

ところが近寄ってくるのは山羊たちです。草むらで見えないハブよりいいかと油断していると手当たり次第、いや口あたり次第手近な物をハムハムし始めました。

やんちゃな雄は繋がれているものの、雌と子ヤギは野放しです。観光マップはまだしもキャンプ用品や食料にまで襲いかかって啜えるに至っては盗られてはならじと戦いが始まりました。与論島（1周）〜徳之島（1周）〜喜界島（1周）〜奄美大島〜伊丹〜出雲

■襲われるその3：道路上で

2024年の佐賀国スポ（大会会場は唐津市）への旅は対馬から始まりました。福岡空港で乗り継ぎ、対馬ヤマネコ空港でバイクを組み立ててキャンプ予定地の西海岸を目指しました。島なので海岸線は坂の連続です。キャンプ予定地近くのお店が18時で閉まるとの情報があったのでビールゲットのため急ぎましたが、この坂道が難関でMTBでも全くスピードが上がりません。最難関では高低差250m近く上ることになり、脚が動かなくなってきました。

秋の夕暮れ、山の中、汗をかいた人間、とくれば襲ってくるのは蚊です。

そうです、劇登りで脚が止まり蚊がとまるぐらいのスピードにまで落ちてしまいました。時速4kmもキツくなったので諦めて降りて歩こうかと思いましたが、そうするとさらに蚊の餌食になりやすく、片手で顔の周りをブンブン飛び交うたくさんの蚊を追い払いながら片手ハンドルでふらつきながら坂の天辺を目指しました。通る車はほとんどいないため蚊との戦いを繰り返しながら西日に向かってよろよろと漕ぎ続けました。

いやはや、戦いの後のキャンプでのビールの美味しかったこと。

出雲～福岡～対馬空港～壱岐空港～長崎空港～伊万里～唐津～JRで出雲へ

国体のトライアスロン競技には公開競技として始まった第64回（2009年）の新潟大会から監督に関わりました。松本華奈選手が新潟国体（村上市）で12位、翌年の千葉国体（銚子）で13位、桶谷裕希選手が東京国体（三宅島）で6位と健闘しています。そして2016年に正式競技になった岩手大会を経て2019年の茨城大会まで監督やスタッフとして関わりました。その後のコロナ禍休止を経た2022年の栃木大会から国体スタッフを外れてMTBソロキャンでの追っかけ応援となっています。

それまでの仕事や個人での移動も含めると2025年末で国内46空港を制覇しましたが、まだ38空港が残っています。残りは主に離島なのでいつ目的が達成できるか分からないのが悩みどころです。

さて、2026年の国スポは青森県開催でトライアスロン競技会場も青森市の港付近です。東北で使っていない空港は花巻空港を残すだけなので、これはなんとしても制覇しなくてはなりません。そこで最大のポイントはお題にも掲げた「トラブル」と「襲われる」をどう回避するかでしょう。

そう「熊」です。

今年並みの熊の出現が続くとキャンプや田舎道サイクリングどころではなくなります。

肝心の滋賀国スポ応援が抜けてしまいました。詳細は選手・監督の手記をご覧ください。

山田梓選手：松江南高時代に中国ブロック合宿に誘ってからになるので選手としての確実な成長を見てきました。スイム、バイク、ランそれぞれにもう一段階上がるとトップ3も間近です。

松田美香選手：2009年に米子で行った初めての中国B合宿のメンバーで長い選手生命を保っています。個人練習が多いので集団での高い負荷に慣れると大化けするかも！

高見雅晴選手：若い年代なので全く接点が無いかと思いきや中学時代に平田高校のオープンスクールに来ていました。その頃から良いパフォーマンス保っていますが課題はスイムスイムスイム。呪文のようにスイムスイムスイム・・・・・・・・

渡部創平選手：こちらも若手なので、と思ったらインターンシップでアメリカに行く前に私の旧知の島大の外国語教育センターの教授との交流があったようで、渡部君の渡米中もやりとりしました。就活就職を終えた後の復活に期待！

ジュニア向けトレーニング機材のご恵与について

会員の皆様には新年を迎え新しい目標に向かってトレーニングを始められたことと思います。

島根県トライアスロン協会では2019年よりジュニア・キッズを対象としたトライアスロン教室を開催し、県や県スポ協の助成を得ながらロードバイクなどの機材整備を進めてきましたが、機材高騰により新車購入等が大変困難になってきました。またジュニア期は成長も著しく、1年で1サイズアップする子も居て交換機材の確保にも苦慮しています。

皆様の使われなくなったバイクなど引き取りに伺いますので、島根を支える次世代のためにぜひご恵与をお願いします。

引き取った機材は必要に応じ整備してジュニア等への貸与とします。

・ロードバイク、MTB、バイクシューズ、ヘルメット、バイクウェア、手袋等

本件についての連絡先

一社) 島根県トライアスロン協会副会長 (強化・育成担当)

母里 充

mitsuru.morijp@gmail.com 090-8604-7233

ベストトライアスリート賞、ベストスタッフ賞、ベストジュニア賞

加藤 一朗

1 目的

当協会が関係する大会およびイベントなどにおいて協会の意欲を喚起するため、令和7年度内に参加したレースをポイント集計し、ベストトライアスリート賞（選手）、ベストスタッフ賞（役員）、ベストジュニア賞（高校生以下）を表彰します。

2 ポイント設定と対象の大会およびイベントなど

① 島根県トライアスロン協会主催のイベント（以下） 3点

- ・さくらおろち湖スプリントトライアスロン大会兼国体予選会
- ・さくらおろち湖トライアスロン
- ・スイムラン in 多伎
- ・キッズスイムラン in 多伎
- ・新春6時間耐久スイム
- ・ジュニア強化合宿
- ・チャレンジシリーズ（各回3点）
- ・加茂・海辺のトライアスロン教室（各回3点）

② ①以外の令和7年度内トライアスロン大会 2点

③ ①以外の令和7年度内大会（マラソン、トレイルラン、スイムランなど） 1点

3 ポイント集計について

令和8年3月22日までに下記のQRコードからgoogleフォームに各自入力下さい。入力に5～15分程度かかりますのでご了承下さい。複数賞にエントリー可です。



ベストトライアスリート賞



ベストスタッフ賞



ベストジュニア賞

4 表彰

集計結果は会報誌4月号に掲載し、それぞれ上位3名を令和8年度総会で表彰します。

5 注意事項

- ・島根県トライアスロン協会会員であること（ジュニアは問わないが入会が望ましい）。
- ・大会での順位は問わないが、公式記録でDNS、DNFとなっていないこと。
- ・集計結果は当協会から他団体などへ推薦する対象者の選出に利用する場合があります。
- ・その他、定められていない項目については、理事会で協議のうえ、決定します。
- ・ご不明な点がございましたら担当理事加藤 machokato@smn.enjoy.ne.jp まで

島根県トライアスロン協会役員紹介

氏名	ニックネーム
母里 充 島根県トライアスロン協会副会長 69歳	特になし
<p>これまでのレース歴（トライアスロン以外も） 自己紹介も最後なので自慢させて下さい。</p> <p>[トライアスロン]皆生大会8位、多伎SRロング優勝、天草国際（51.5km最速2h07m）[陸上競技]フルマラソン2h40m23s（防府読売）、1500m4m11s [自転車競技]中国五県対抗ロード23位団体3位（世羅95km）[距離スキー]国体予選3位（大山川床15km）[トレラン]ハセツネ104位（71.5km）[ロゲイニング]菅平12h総合2位[山スキー]中国山地吾妻山～三井野原スキー縦走（2月）、大山頂上滑降（ヒッコリー単板、カンダハー、登山靴）</p>	所属チーム
	はて？
	<p>主な練習場所</p> <p>さて？</p>
	<p>趣味</p> <p>地図読み、乱読速読、大きなお世話</p>
<p>自己紹介</p> <p>上記の自慢話からは小さい頃から運動が得意だったのだろうと思われがちですが、全くの「青なりびょうたん」で体育運動会大嫌いの運動音痴で体育は5段階評価の2、全校集会ではいつも倒れて片隅でヘタレていた小中高は音楽畑（吹奏楽部：ほら吹き、腹鼓、口三味線）です。唯一大学ではワングル部で山に登っていたのが例外の運動歴で、卒業すると酒、たばこ、パチンコ、麻雀、夜更かしの普通の社会人生活を送っていました。</p> <p>ダイエットで走り始め職場（島根医大）にプールが出来た頃皆生に刺激され「よし、トライアスロンだ！」で泳いだところ25mで沈没。そこからがチャレンジと試行錯誤の連続で、やり始めると面白くなり色々な持久スポーツに挑戦しました。我流に限界を感じスイミングで鍛えられた最初の皆生はスイムを1h17分で終わると海岸に足が着いたところで完走を確信しました。振り返ると最大の後悔は皆生に出るための3万円の中古ロードバイクが欲しくて「大事に取っておきなさい」とバイク屋さんと言われたオートバイを3万円で売ったことで、今だと300万円近い相場となっています（カワサキKH250）。</p> <p>トレーニングは「新しもの好き」で心拍計はポラールの第2世代を1983年から、パワーメーターも2008年から使っています。人がやっていないことは情報が少ないのでチャレンジする面白さがあります。競技はずっと前に辞めて選手育成・指導や指導者養成（JTU指導者養成委員～2024）など挑戦する人を応援しています。そして平田高校駅伝部の指導スタッフで朝練から子供達を応援し、自宅に高校生を（駅伝部女子）下宿させている下宿屋のオヤジです。</p> <p>[指導資格]JSPOコーチ1トライアスロン、WT(旧ITU) レベル2コーチ</p>	
<p>今年の目標</p> <p>以前公言した「60代最後の皆生再挑戦」は身体が動かないので断念し、健康を維持するために「柔軟な身体と心を取り戻すこと」が目標です。</p>	